

## 1 学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた教育活動の推進

- (1)主体的な学びを伸長する学習指導・進路指導の推進
- (2)総合的な人間力の育成に向けた特別活動・体験学習の充実
- (3)自主自立の精神と社会貢献への意欲・能力の育成

〈中・長期目標〉 **伝統を継承し、相互の信頼感を深め、不断の努力によって学力の充実した心身ともにたくましい生徒を育成をめざす**

## 2 平成30年度に重点を置いて目指す目標・具体的方策

- ① **総務課**  
家庭・地域との連携を深める
- ② **教務課**  
教育課程の充実と更なる研究
- ③ **生徒課**  
生徒と教師の信頼関係を基盤とした生活指導、学年・分掌との連携による学校行事・生徒会活動の充実
- ④ **進路指導課**  
個々の生徒に応じたきめ細かな進路指導の充実、主体的な学習への指導、大学入学共通テストへの適切な対応
- ⑤ **教育相談課**  
生徒一人ひとりに寄り添い、自己肯定感を高める指導の充実
- ⑥ **図書視聴覚課**  
読書活動の充実
- ⑦ **情報企画課**  
安全かつ有効な校内外の情報環境の活用
- ⑧ **保健体育課**  
たくましく生きるための体力の向上、望ましい人間関係づくり
- ⑨ **SSH・理数科**  
理数科と科学部を中心とし、学校全体でのSSH事業の実践による理数教育の先進的な取組の推進
- ⑩ **人権教育**  
自己肯定感と、他人の人権を認める意識の育成
- ⑪ **業務改善**  
教職員が協働し、メリハリをもって業務遂行ができる職場づくり

3 自己評価						4 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析		学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	○家庭・地域との連携を深める。	保護者や地域の方々に公開している学校行事の情報発信を適切に実施するとともに、迅速・円滑なホームページの更新をおこなう。	4:十分に連携が深まった。 3:連携が深まった。 2:連携が不十分であった。 1:連携ができなかった。	4	運動会、徳高祭について、ホームページで開催を告知し、プログラムを公開した。運動会、徳高祭を含めた学校行事について実施後、速やかに写真等を公開し、実施状況を発信することができた。		ホームページに、学校で実施した活動が迅速に掲載され、その様子がよく分かった。今後もホームページ等を活用し、積極的な情報発信を継続してほしい。	A
教務	○教育課程の充実と更なる研究	平成34年度から始まる新学習指導要領の研究を通して、生徒の進路実現に適切に対応する教育課程の編成を図るとともに、明らかになった課題について改善への研究を行う。	4:学年・教科間で生徒の特性を共通理解して、円滑な教育課程の編成と課題の改善への研究を行った。 3:学年・教科間で共通理解をして、円滑に教育課程の編成を行うことができた。 2:学年・教科間での共通理解が不十分だった。 1:生徒の特性を把握できなかった。	4	45分7限授業も定着し活気ある授業が展開されている。生徒の進路実現のために、教育課程の編成を、学年・教科・分掌の連携を図りながら行った。新学習指導要領による教育課程の説明会にも参加し研修内容を共有した。今後も社会に開かれた教育課程の研究を深め、確かな学力を育成をめざしたい。		新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の改善について、教職員間で様々な議論が続いていることについて理解できる。今後も検討を重ね、新学習指導要領に対応した教育課程の充実に取り組んでほしい。	A
生徒指導・特別活動	○生徒と教師の信頼関係を基盤とした生活指導、学年・分掌との連携による学校行事・生徒会活動の充実	生徒指導の4本柱(遅刻の防止、挨拶の励行、掃除の徹底、服装・頭髮の清整)の指導を強化し、基本的な生活習慣を確立させることができる生徒を育成する。	4:十分に指導が行き届き、9割以上の生徒が基本的な生活習慣を確立させた。 3:7割以上の生徒が基本的な生活習慣を確立させた。 2:基本的な生活習慣を確立させた生徒が半数程度だった。 1:基本的な生活習慣を確立させることができなかった生徒が多かった。	4	全教員が協力して朝の立哨指導を行い、遅刻数が減少した。登校時に自ら挨拶をする生徒も増えてきた。今後も遅刻指導や挨拶運動に積極的に取り組み、生徒が充実した学校生活を送れるようにはたらきかけたい。服装・頭髮の清整に関しても生徒の意識が高まってきた。		挨拶の励行に向けて、組織的な努力を根気強く続けられている一方で、学校評価アンケートの挨拶に関する項目において、評価が低く、改善が必要である。校舎内での挨拶運動など積極的に進めてほしい。	A
		生徒自身が主体的に学校行事や生徒会活動に取り組む場面を作り、連帯感や自己有用感を高めることができるように支援する。	4:学校行事・生徒会活動が成功し、9割以上の生徒が連帯感・自己有用感を高めた。 3:7割程度の生徒が連帯感・自己有用感を高めた。 2:連帯感・自己有用感を高めた生徒が半数程度だった。 1:連帯感・自己有用感を高めることができなかった生徒が多かった。	4	部活動では、運動部、文化部ともに生徒自身が意欲的に取り組み、好成績を収めた。特に文芸部の「俳句甲子園」での全国優勝は際立った。二大行事でも生徒会執行部、実行委員会を中心に生徒同士が話し合い、成功に導くことができた。			
進路指導	○個々の生徒に応じたきめ細かな進路指導の充実、主体的な学習への指導、教員の進路指導力向上、大学入学共通テストへの適切な対応	(1年次生) 「予習・授業・復習」サイクルによる学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。大学共通テストに必要な力を育成する。	4:学習習慣が定着し、学力が向上した。 3:学習習慣が定着した。 2:成果があまり見られなかった。 1:成果がほとんど見られなかった。	4	入学当初の学習オリエンテーションの実施や手帳やナビビジョンを活用することにより、自己管理能力、学習計画力、進路に対する意識が向上し、ポートフォリオに対する認識が深まった。授業改善、補習、課外や面談を通して、学習習慣が定着し、基礎学力が向上した。また全体的に学力が入学時に比べて上昇している。		各年次で診断・分析されている成果のとおり、各年次において十分な取組が行われ、成果が上がっていると思う。学校評価アンケートでも進路指導に関する項目の評価が高く、引き続き活発な取組を続けてほしい。	A
		(2年次生) 学習計画、課外、模擬試験等の実施により、早期受験態勢の確立を図る。	4:受験への取組が十分できた。 3:受験への取組ができた。 2:成果があまり見られなかった。 1:成果がほとんど見られなかった。	4	本年度も2年次生に手帳を持たせ、学習計画力の育成に努めた。夏季課外も今年度も全員受講とし、年次全体の学力向上を図った結果、模試の成績分析から学力の向上が見られた。濃密な面談をすることにより、受験に向けての意識を高めることができた。			
		(3年次生) 課外、模擬試験、センター試験対策講座、小論文、面接指導等の実施により、受験学力の習得を図る。	4:受験に対応できる学力が向上した。 3:受験に対応できる学力が定着した。 2:成果があまり見られなかった。 1:成果がほとんど見られなかった。	4	6月から11月までの平日放課後課外、夏季課外(前期・後期)の実施により、基礎学力及び受験学力の向上が見られた。センター試験、個別試験、小論文に対応した講演会、講座を実施し、受験に対応できる学力が上昇した。また、各種模試を積極的に受験させ、その結果から学力、受験に対する意欲が向上した。			

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教育相談	○自己肯定感の涵養と諸問題に対する早期発見と早期対応	学年や保護者、他の分掌との連携をとり、生徒の変化を見逃さず、また実態調査等により生徒の状況把握を行い、適切な対応を行う。	4:連携して効果的な対応ができた。 3:連携して対応ができた。 2:連携して対応できなかった。 1:状況把握ができなかった。	4	悩みを訴える生徒や、欠席が続く生徒に対して、ただちにケース会議を持つなど、早期対応に努めた。SCからのアドバイスを受け、家庭訪問等を通して保護者との連絡を密にすることで不登校が解消された生徒も	スクールカウンセラーの活用、ケース会議での支援方法の検討など、適切な対応がなされている。今後も相談できる体制を整えてほしい。	A
図書視聴覚	○読書活動の充実	読書推進のための情報提供と図書配架を行う。	4:活動状況は例年より好調であった。 3:活動状況は例年並みであった。 2:活動状況は例年より低調であった。 1:活動状況は顕著に低調であった。	4	読書感想文コンクールでは、5名のうち3名が県のコンクールに推薦され、そのうち1名は最優秀賞(課題図書1位)に入賞し、全国コンクールに推薦された。いずれの生徒も上位入賞した。	読書コンクール等にも積極的に出品し、良い評価を受けている。読書に対して適切な対応をしていると感じる。	A
情報企画	○安全かつ有効な校外の情報環境の活用	インターネット上及び校内LAN上にある資源の安全で適切な利用のため、手順と環境整備の周知と保持を行う。	4:安全を保って有効な活用と整備ができた。 3:多数の教員と生徒に周知ができた。 2:取り組んだが徹底できなかった。 1:計画のみに終わった。	3	情報機器と通信機材の管理を常時行い、可用性と安全の確保を行った。webページとメールによる情報提供を随時行っている。速度の面で多方面に改善の余地がある。	回線の接続速度等のハード面での課題は依然残るが、状況は改善されつつある。自然災害が増えている中で、情報機器は重要と考える。今後も一層の活用をお願いしたい。	A
保健体育	○たくましく生きるための体力の向上、望ましい人間関係づくり	運動等を通して仲間との連帯感を大切に、自己の体力と運動能力を向上させるとともに、自分の思いや願いを話すことや人との関わりができる生徒を育てる。	4:仲間と協力し、自主的・主体的に工夫して活動していた。 3:仲間と協力し、自主的・主体的に工夫して活動する生徒が多かった。 2:仲間と協力し、自主的・主体的に活動する生徒が半数程度だった。 1:仲間と協力し、自主的・主体的に活動しない生徒が多かった。	4	体育的行事としての運動会においては、生徒たちが自ら主体的、意欲的に創作活動等に打ち込んでいた。 マラソン大会については、今年度より生徒の安全性を考慮し、周南緑地公園の周回コースに変更したが、コース・運営方法等、今後も引き続き検討していきたい。体育の授業においては、生徒たちが自ら意欲的に活動している姿が十分見受けられた。	運動会では生徒の素晴らしい活動を見ることができた。マラソン大会の運営方法や、コースの変更について、安全を最優先にして改善したことは、大切な視点であると考えます。	A
SSH理数科	○学校全体でSSH活動に取り組み、理数教育の活性化を進める	理数科・科学部を中心とした活動を通して、全校生徒の科学技術への理解を深める。	4:教育効果の高い活動が十分できた。 3:理数科・SSHの活動がほぼ予定通りできた。 2:理数科・SSHの活動の一部がやや遅れた。 1:予定していた活動ができなかった。	4	日本分子生物学会高校生ポスター発表等の外部発表会に参加し、生徒が取り組んでいる課題研究の発表をした。課題研究を進めている生徒も、外部でアドバイスを受けてさらなる研究につなげる好循環が生まれた。8月には筑波大学附属駒場中・高等学校の数学科教員研修会を引き受け、駒場高校の先生による数学の授業を実施するなど、他校との連携を深めた。また、化学グランプリ銅賞や科学の甲子園山口県大会優勝など、理数関係で生徒が活躍し結果を残せた。	本校の近くにはコンビナートがあり、これらの企業と連携し成果を上げている。今後も近隣企業との連携を一層高めて取組を進めるとともに、成果を積極的に外部に発信してほしい。	A
人権教育	○自己および他者の人権を理解し尊重する指導ならびに問題に対する早期対応	講演会の開催等により人権意識を高めるとともに、いじめ等の他者への人権侵害に関する実態調査を行い、生徒の状況把握と、関係各所との連携による早急な対応を行う。	4:取組により他者の人権に配慮する意識が高まった。 3:取組により他者の人権に関心を持つようになった。 2:取組の成果が十分現れなかった。 1:状況把握ができなかった。	4	講演会では、知識的なものにならず、人権について哲学的な観点からアプローチし、生徒自らが考えるきっかけとなるものであった。講演会後の質疑でも多くの質問が出た。その後行った少人数での討論会でも、生徒それぞれが自分の考えを述べた。また、生活意識調査に現われた問題点も早期に対応し	いじめ防止基本方針について、毎年改善を加えるとともに、ホームページに掲載して周知を図っている。また、いじめにつながる可能性がある学校生活上の問題も、迅速に対応されている。	A
業務改善	○教職員が協働し、メリハリをもって業務遂行ができる職場づくり	教職員の協働によりチームとして各業務を遂行する職場文化の醸成をめざし、負担感、多忙感の軽減を図る。	4:協働的職場文化が確立し、メリハリのある業務遂行により、業務改善された。 3:各分掌や主副担当間で連携して業務遂行ができ、負担感や多忙感が軽減されつつある。 2:相互に協働して業務を遂行しようとする意識はあるものの、業務改善につながっていない。 1:協働的な業務体制が確立できず、教職員に時間的なゆとりが見られなかった。	3	各分掌内や、年次団の担任、副担任間で情報交換をしながら協働して業務に当たる姿が見られ、複数の担当で互いに支えあいながら業務を遂行することができた。在籍生徒数が多いため、一つひとつの業務の処理に時間がかかり、業務時間の縮減には至っておらず、引き続き業務改善の取組を推進していく必要がある。	様々な業務がある中で、業務改善に向けたできる限りの取組が推進されていると感じる。教員の一層の意識改革を進めるとともに、週休日における部活動の等、他校でも問題になっている点については、県のガイドラインに沿って改善を進めてほしい。	A

## 5 学校評価総括(取組の成果と課題)

- ① **総務課**  
ホームページの更新を迅速におこない、更新回数を昨年度より増やした。今後もさらにホームページを充実させ、本校についての情報発信をより進めていきたい。
- ② **教務課**  
進学型単位制、45分7限の授業形態も順調に進み成果を残している。地域の期待に添える学校として、更なる努力を重ねていきたい。また、新学習指導要領の新しい科目についても周知と理解を進めたい。
- ③ **生徒課**  
「生徒指導の4本柱」のもと、多くの生徒が基本的な生活習慣を確立させ、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送ることができた。特別活動では、今以上に生徒自身が主体的に学校行事に取り組めるよう十分な時間の確保に努めたい。
- ④ **進路指導課**  
各年次ごとに目標を設定し、計画的に取り組むことにより、進路意識や基礎学力、受験学力が向上した。現2年次は最後のセンター試験、現1年次は大学入学共通テストとなることを踏まえ、より一層きめ細かな進路指導を推進し、生徒の希望進路の実現に向けて組織的な対応を進めたい。
- ⑤ **教育相談課**  
欠席や遅刻、また、生活意識調査の結果を踏まえ、問題を抱える生徒の早期把握と解決に努めた。今後も担任、学年、保護者及び各分掌との連絡を密にし、悩みを抱える生徒への対応を迅速に行いたい。
- ⑥ **図書視聴覚課**  
読書活動を促す様々な働きかけにより、読書量が増えた。また、各種小論文コンクールへの応募も好成績を収めている。
- ⑦ **情報企画課**  
校内外の情報資源を有効に利用し、個人情報や著作権の保護を適切に行うよう努めた。また、必要な情報発信と公開を定期的に行っている。
- ⑧ **保健体育課**  
校内における体育的行事・保健活動等を通して、生徒の自主性を醸成し、授業もしくは学校内のすべての活動に積極的に取り組むことが出来る生徒の育成に引き続き取り組んでいきたい。
- ⑨ **SSH・理数科**  
県内連携校の協力を得ながら実施した「SSH科学技術人材育成重点校」事業においても、多くの連携校と共に、県内の理数教育の充実に貢献できた。来年度以降も、校内外の理数教育の充実に図る取組を行っていきたい。
- ⑩ **人権教育**  
講演会や授業、学校行事などの特別活動を通して、生徒の人権意識の高揚に努めた。講演会では、人権を哲学的に捉え、知識としてではなく、生徒自らが考えるきっかけとなった。
- ⑪ **業務改善**  
業務時間を確実に記録し、教員一人ひとりの業務時間を確実に把握するとともに、ワーク・ライフ・バランスの改善に向けた業務の分担を図った。メリハリをつけて協働して業務遂行する文化は育ってきているが、実質的な業務時間縮減に至っておらず、実効性のある方策が早急に必要である。

## 6 次年度への改善策

- ・ 企画・立案の段階から各分掌との連携を図り、組織としての連帯感を高める。また、全日制・定時制・分校の連携体制の一層の推進を図る。
- ・ 新学習指導要領の趣旨の理解や、高大接続改革に関する動向の収集と周知を図り、改訂の趣旨に沿ったカリキュラム・マネジメントを組織的に進める。
- ・ SSH、次世代型教育パイオニア校として、取組を推進し主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を目指すとともに、SSH第2期の成果と課題を検証し、第3期指定に向けた計画の立案を組織的に進める。
- ・ 生徒の主体的な活動、生活習慣の確立、体力の向上を推進し自主自立の精神を醸成するとともに、望ましい人間関係づくりに向けた取組を継続する。
- ・ さわやかで気持ちの良い挨拶の励行に向けて、教職員から積極的な挨拶や声かけを行い、活気のある明るい学び舎づくりに取り組む。
- ・ 研修会や講習会等の実施により人権意識を醸成するとともに、きめ細かな面談や定期的な生活実態調査を行うことで、いじめ防止、早期発見に努め、生徒支援にあたっては組織的な取組となるよう校内体制を充実させる。
- ・ ホームページ等のインターネットを活用して、教育活動の外部への発信と、自然災害等発生時等の迅速な緊急連絡を推進する。
- ・ 教職員のワーク・ライフ・バランスの適正に向け、年次、分掌間の連携と協働を一層進め、業務時間の縮減を図る。